

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670801125		
法人名	株式会社ふれんど		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	998-0071 山形県酒田市古湊町9番8号		
自己評価作成日	平成 24 年 12 月 18 日	開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3—31		
訪問調査日	平成 25年 1月 24日	評価結果決定日	平成 25年 2月 12日

(ユニット名 西の家)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

機能維持・体力低下防止の為、毎日レクリエーションやリハビリ体操を行っています。また、自分らしい生活をして頂く為に、ご本人の意思を尊重し笑顔で過ごせるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日中の職員配置を多めにして利用者と一緒に過ごす時間を大切に、共に笑い、共に歩き、共に支え合って暮らしています。高齢になると苦手になる「毎日の入浴」を理念の一番にあげ、残存能力を活かした家事手伝いの積極的な関わりを支え、体力維持にも意欲的に取り組んで、毎日を活動的に過ごしています。西の家、東の家、デイサービスの交流が日常的に行われ、日課として通う利用者もあり、職員の温かい見守りの中、自由を楽しみ、家庭的な雰囲気は何より大事にしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をふれんど内の玄関と食堂、事務所に掲げ、目の届くようにして、ひとりひとりの希望に添った日常生活のお手伝いに努め、実践している。	「毎日の入浴」「家事や食事、余暇の時間を一緒に」「地域との交流」を理念に掲げ、実践に向けての取り組みに様々な工夫がみられ、利用者の笑顔といきいきとした表情が職員の励みになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して地域の交流に勤めている。子供会が伝統行事でまわって来てくれたり、踊りの慰問もある。	町内の防災訓練に参加したり、踊りや歌のボランティア訪問もあり、地域の方との交流を楽しみにしている。併設するデイサービスとの行き来も自由に行われ、近所仲間のお茶飲み付き合いの様に過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員研修会やグループホーム連絡協議会の講演のお知らせを、地域の方々へ声掛けをし参加してもらうことにより、認知症の理解を深めて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の報告に終る事無く、また、そこでの意見を活かし改善に努めている。	会議は家族代表の方から運営に関して意見をもらう事も多く、改善に繋がる良い機会になっている。自治会、行政などの情報交換や事業所からの発信の場として役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	意見交換はその時々に応じて行っている。	市担当者とは疑問点をその都度電話で聞くなど何でも相談できる関係を築いている。介護相談員の訪問は利用者と顔馴染みになって様子を伝えてもらい、職員間で共有し検討する場も設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	マニュアルを作成し周知徹底している。また状況によりミーティングを行っている。	玄関は施錠せず「身体拘束排除宣言」を周知し、日中の職員の配置を多くして一緒に散歩に出かけたり見守りに気を付けている。家族等にも面会時に状態を報告しリスク等の理解をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を周知し、取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が地域福祉権利擁護事業と成年後見制度の研修を受けており資料で説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は十分に説明を行うとともに意見や質問などを受けるなどして不安のないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見に耳を傾けながら、運営に反映させるように努めている。	利用者、家族等からはこたつがある話し易い雰囲気の中で意見・要望を聞き、職員は申し送り等で共有しサービスに繋げている。担当者は毎月のお便りで日頃の様子や行事日程を知らせ、つながりを大事にしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、話し合う時間をとるようにして会議等で早期解決に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じ手当及び昇給等を行ない、労働意欲向上に努めている。また、資格取得のためのバックアップや就業規則を改正し定年延長を行ない、安心して働ける環境作りをしている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が研修計画を立て、外部研修や職場内研修を実施している。	外部研修は経験年数に合わせて参加し、資料・復命書を回覧して職員間の学びに繋げ、年1回その報告会を開いている。今後は地域の方に認知症を理解してもらう為の講習会などを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市が主催するサービス事業者連絡協議会に出席し、意見交換をしている。 スクラムチャレンジでの交流会、勉強会に管理者、職員が参加している。	同業者との交流の場には積極的に参加し、情報交換しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。毎年交換実習も行われており、その中で得た体験を業務に活かし職員のスキルアップを図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時には、現況報告書を提出していただき、入所の順番が近づいた頃には事前面接を行って本人の意向や、家族の意向を確認して入所につなげるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人がいる前では話にくい事柄があるので、個々に相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接で知り得た状況の中で他のサービス利用を含め、計画作成者、職員で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をともにして、年の功を活かした知恵をいただくような関係の築き上げに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望には家族と共に取り組み、面会時はゆったり過ごせるように配慮している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	担当者を決めて馴染みの関係が築かれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションをとれる様に、職員が間に入り関わりを増やす。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の生活環境が変化するため、これまでの経過を詳しく説明し、本人と家族の不安が軽減される様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしに対する思いに関心をもって、把握に努める。把握が難しい場合は生活歴により利用者の立場で考えて検討する。	利用者とはじっくり向き合い、傾聴し、表情を観察して思いの把握に努めている。家族等や介護相談員からの聞き取り、普段の関わりの中で知り得た情報は利用調査票に記録し、ケアプランの一番上に入れて非常用持ち出しにも活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用調査票を作成し、職員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりの身体状況や精神状況などを申し送りや日々の打ち合わせなどから総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	比較的、御家族の面会が多く色々な意見をいただける。利用者の現状を考えながら担当職員、看護師と共に介護計画を作成している。	根底にあるさみしい思いを軽減し、居心地よく暮らしてもらう為に、現場の声を反映した毎日の個人記録やケース記録から本人の意向を細かく拾い上げ、利用者・家族等と良く話し合っ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子は、個々に記録を取りながら見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の心身の能力を出来るだけ発揮してもらいながら、理美容院、近くの商店、自治会、ボランティアの方々と共同して豊かな暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度内科のかかりつけ医と嘱託医の往診あり、状態により家族と相談し皮膚科、精神科、歯科の往診も行われている。	協力医による定期的な往診があり利用者、家族等、職員の安心に繋がっている。急変時は24時間対応の看護師の指示を得て、主治医とは往診日前に1ヶ月分の健康状態を情報交換し、連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算による看護師を配置し、日常の健康管理や医師との相談、連絡を取るなどの支援に努めている。状況により通院時に同行する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	状態確認を行ない、御家族、医療機関と相談し、できるだけ早く退院できるように支援を行っている。また、必要な状況に応じ看護師と病院関係者が情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、個人差があるので症状に合わせて経過をみながら、医師や御家族と相談して取り組んでいる。	家族等には契約時に医療行為は出来ないことを説明している。入院が長期化したときや状態変化に応じて話し合いが行われ、希望に沿えるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てずに適切な行動がとれるように、AEDを取り入れた研修やマニュアル集を作成し、色々な場面を想定しながら防止に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、日中、夜間を想定して行っている。地域の防災訓練に利用者、職員共に参加し協力体制に取り組んでいる。	7月と10月に日中と夜間想定で消防署立会いのもと、避難訓練を実施している。地区の津波想定での防災訓練に参加し、東日本大震災を経験し懐中電灯、非常食、飲料水などを備えている。	運営推進会議等で自治会長を通して地域に協力を依頼しているが、訓練への参加も含め協力体制作りに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者はおお客様であるという考え方で接するとともに、プライバシーの確保という基本的な事柄については全職員が気を付けている。	居室の整理や清掃するときは、必ず一言声がけしてから入室するようにしている。出来ることへの参加を促し、手伝ってもらったとき職員は「ありがとう」と感謝を言葉で表し、利用者の満足した表情が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉だけでなく、表情や行動を注意深く見守りながら、日々の関係の中で、働きかけを心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的に穏やかに過ごしたい傾向にあるが、ADL低下防止のためにレクリエーションや体操、散歩等を取り入れた支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりの衣類は長く着用できるよう職員が手直しし、エプロン等の小物は手作りしている。化粧品の使用も日常的に行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下準備、食事の後片付け等、一緒に行なっている。行事食や利用者の希望も取り入れたメニューで楽しく食事が出来る様に支援している。	利用者の希望や行事食を取り入れ職員が立てた献立を利用者と一緒に作り、共にテーブルを囲み、会話も弾んだにぎやかな食事時間となっている。外食や手作りおやつなども楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態にあわせた食事量、バランスのとれた食事を提供している。また水分は食事以外でもお茶やコーヒー、牛乳、ジュース等で摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯ブラシは欠かさないように声掛けをし、自分で出来ない方は職員が介助してブラッシングしている。義歯の方は夜間に洗浄剤も使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導で習慣性を大切にしている。また、一人ひとりの行動を把握し排泄のタイミングを計り誘導を行っている。	一人ひとりの時間を見計らった排泄パターンを把握し、トイレ誘導を実施している。残存能力を活かし自分で出来ることはしてもらい、職員は足りないところをサポートしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘については排便のチェックをしながら、乳製品を提供したり運動をしたりして、できるだけ自然に排便できるように工夫して支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前、午後も入浴はでき、希望に沿って実施している。	理念の一番に「毎日の入浴に努めます」とあるように、身体状況に合わせてデイサービスの浅めな浴槽も利用しながら実現に向けて取り組んでいる。職員と1対1になる入浴は本音がでて共にゆっくり寛げる大切な時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握して、できるだけそれに沿った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は全員が把握できるように記録に添付している。また飲み忘れや誤薬を防ぎ、体調が変化した時の薬の調整などの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの内容に変化をつけて、一人ひとりの力の発揮場所ができるように支援している。季節の食材で保存食作りを行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出掛ける時は職員に声をかけてもらい、見守りができる対応になっている。季節を感じて頂けるようにドライブ等行ない、御家族と外出の場合は最近の心身の状況を伝えて、安心して外出してもらえるように支援している。	季節毎に屋形船での花見や紅葉狩りなどドライブを兼ねて出かけている。天気の良い日は近くの神社に散歩に出かけ、趣味の買い物など個別の外出にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者の方は、買い物やドライブに行った時に使ったり、本人より希望があった場合は職員と一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合は、電話をかける支援を行ったり、ハガキ等の購入やポストへの投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い居室には遮光カーテンを使用したり、トイレなど共用の空間には芳香剤を置き、不快感をなくしている。お互いのユニットと通所が行き来できるため、ゆったり過ごす事ができ、玄関や廊下には季節毎の創作物を飾っている。	ホールには床暖房が施してあり、清掃が行き届きスリッパなしで過ごしている。機能維持、体力低下防止のため、職員のアイデアを入れたレクリエーションやリハビリ体操に利用者也喜んで参加している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースでは一人になれる場所はないが、畳敷きの談話スペースがあり、気の合った利用者が活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中は全て本人の私物となっていて、居心地良く過ごされている。	居室入り口には季節を感じる各自の作品が飾り付けている。ベッドの位置は横になっても外の動きがわかるようにするなど、利用者のこだわりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には段差はなく、廊下には手すりが設置されている。利用者には出来ることは行ってもらい、不安がある事については職員が見守りながら一緒に行っている。		